

重点的に取り組んだ活動・内容

| 項 目 | 実 践 状 況 |
|-----------------------------------|--|
| <p>1 実践1 【人権問題を考えよう】</p> | <p>世の中には SNSでの誹謗中傷や外国人に対する差別、同和問題、いじめ・虐待等、様々な人権侵害があり、差別や偏見に苦しむ人たちが存在する。しかし、児童の多くは普段、人権問題をあまり意識することなく生活しているため、いつ加害者や被害者になるか分からない。そこで、まず人権問題を知ることから始め、知ること学び、学ぶことから行動に移せるようにしていく実践を行った。</p> <p>-----</p> <p>成果</p> <p>人権学習の第一歩として、「区別」と「差別」の違いを知ることから始めた。令和5年度茨城県人権啓発ポスターコンクールのポスターを見て、描かれてる人物をいろいろな視点（大人と子供、男性と女性等）で分けることで「区別」を学んだ。次に、大谷翔平選手が活躍しているアメリカの大リーグで、黒人選手の記録が認められなかった時代の新聞のコラムを読むことで、「差別」を学んだ。また、人種差別を取り上げたときは、差別と戦った野口英世、杉原千畝、キング牧師、アンネ・フランク等についても触れ、図書室にある彼らの学習漫画を読むことで、差別の理解を深めることができた。さらに、県人権教育室から借りた人権教育視聴覚教材（DVD）を視聴することで、世の中に存在する様々な人権問題を知り、人権問題をより自分事として捉え、自分の行動を考えることができるようになってきた。</p> <p>-----</p> <p>課題</p> <p>人権問題は、まず教師自らが正しい人権感覚をもち、自分の言動に手本を示す必要がある。その上で、日常生活でのいろいろな出来事に対し、児童も教師も他人事ではなく自分事として考え、みんなが幸せになれる行動がとれるように、学校全体で同一歩調で取り組んでいきたい。</p> |
| <p>2 実践2 【職員研修会（学校の人権問題）】</p> | <p>日常生活は、人権があるから安心・安全に生活ができる。児童・教師が多くの時間を過ごす学校でも同じである。しかし、残念ながら、いじめ、暴言、個人情報の漏洩、パワハラ、盗撮、わいせつ行為等、学校での人権問題が報道されることがある。そこで、教職員が報道されていることを自分事として捉えて適切な行動をとることができるように、学校の人権問題を取り上げた職員研修会を行った。</p> <p>-----</p> <p>成果</p> <p>学校の様々な場面（児童、保護者、来校者、電話、設備や環境等）での配慮や丁寧な対応について知ること、研修に参加した教職員一人一人が人権を意識するようになり、人権問題を自分事として捉え、人権感覚を磨くことができた。また、ある場面での会話から違和感を感じる言葉を出し合う演習を行うことで、知らなかったでは済まされない言葉（以前は大丈夫だったが、今では不適切となっている言葉）について知り、知識をアップデートすることもできた。</p> <p>-----</p> <p>課題</p> <p>日々の一コマコマが人権教育であり、人権教育が充実しないと、教育活動は充実しない。そのために、「昔はこうだった。」のような古い感覚ではなく、「今はこうである。」という新しい感覚をもち、「今の態度や言葉はおかしくないか。」と互いに言える人間関係を構築し、組織的な取組をしていきたい。</p> |

